



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺 TOKI
ももぎ

No. 30

広報紙「朱鷺」デジタル化のお知らせ

広報部担当理事

尾崎 生

次年度より、新潟県作業療法士会では広報紙「朱鷺」を紙媒体からデジタル版へ移行することとなりました。この決定は、近年の情報発信の多様化や会員ニーズの変化、そして印刷や発送にかかるコストや作業負担の見直しを踏まえ、より効率的で持続可能な広報体制を整えることを目的としています。デジタル化により、皆様のお手元に紙面でのお届けはなくなりますが、お持ちのスマートフォンやタブレット、PCから手軽に高精細な内容で表示、閲覧が可能となります。これまでは各施設に1部ずつのお届けであったため、特に大人数の所属施設では回覧に時間がかかってしまっていたかもしれません。これからは会員の皆様が直ぐに新鮮な情報に触れていただけることとなりますので、紙面の内容についてもより良いものにしていくよう努めてまいります。

デジタル版はこれまで同様に年3回発行し、県士会HPに掲載、皆様へは「県士会LINE」「会員専用メールマガジン」でお知らせいたします。いずれもお好きな時間にワンタップ/クリックでアクセスできますし、記事の内容を読みながら、研修会や学会の申し込みURL等と同じ端末で読み込むことで迷わずにお申し込みが可能となるなど利便性も高まります。まだLINEやメルマガの登録がお済でない方は下記よりお願いします。どちらか一方だけではなく「どちらも」登録していただけますとより効率的に情報を得ることができます。

今回のNo.30をもって紙面での発行は終了し、次年度7月を予定しているNo.31よりデジタル版へ完全移行する予定です。会員の皆様には、より良い広報活動の実現に向けた取り組みとしてご理解とご協力をお願い申し上げます。

「県士会LINE」

ともだち登録はこちらから



「会員専用メルマガ」

配信の登録はこちらから



第3回新潟県リハビリテーション専門職学会大会

令和7年12月20日・21日の2日間、新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターを会場にして、第3回新潟県リハビリテーション専門職学会大会が開催されました。この大会は新潟県の作業療法士会と理学療法士会、言語聴覚士会が連携して運営している新潟県リハビリテーション専門職協議会が主催となり、令和元年から3年毎に開催しています。

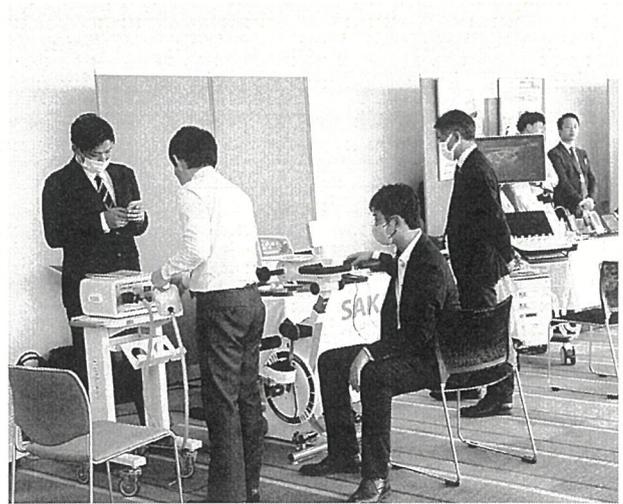
2日間で565名の参加がありましたが、そのうち作業療法士は143名でした。作業療法士だけでは、会場の規模も予算的にも同様の学会大会を開催することは困難で、やはり当日の熱気は合同開催の意義を感じるには十分なものであったと思います。なにより一つの会場内でそれぞれの専門性を活かした多くのセミナーや症例報告に触れることができるのもこの大会の大きな魅力の一つだと感じられました。



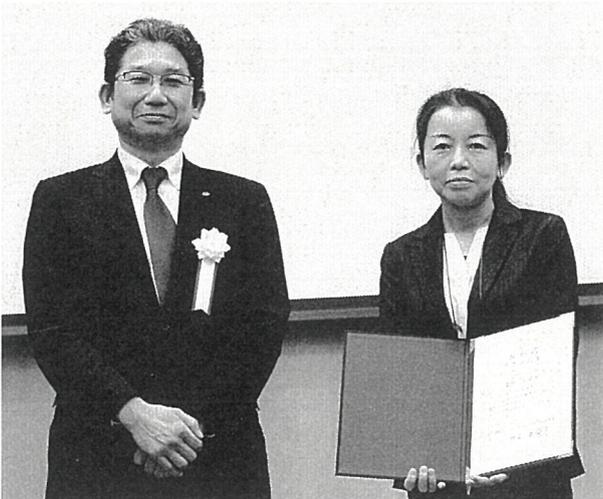
次回の日本作業療法学会と同じ広い会場も560名を超える多くの参加者で賑わっていました。



ご来賓の皆様：(左から) 新潟県副知事 笠島公一様、新潟市副市長 井崎規之様、衆議院議員 斎藤洋明様、新潟県議会議員 岩村良一様、新潟県栄養士会会長 斎藤トシ子様、新潟県歯科衛生士会会長 薄波清美様



左右：当日は当会の賛助会員の皆様も含めて多くの企業から機器展示のご協力をいただきました。



左：優秀演題賞は新潟中央病院の青柳美保先生が受賞されました。おめでとうございます。
右：2日間多くの参加者に対応して下さった受付の皆様、本当にお疲れ様でした。



1日目終了後の懇親会も予定を上回る人数が集まる盛況ぶりでした!!

車いす用クッションの紹介

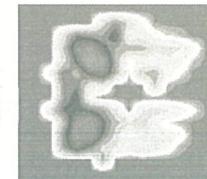
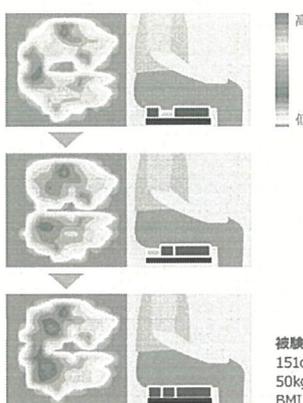
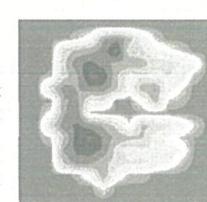
済生会三条病院 作業療法士 榎本 康 佑

今回は、車いす用クッション「パワークッション」について紹介したいと思います。

先日勤務先にて福祉用具についての紹介を受ける機会がありました。そこで紹介され私自身も体験し良い製品と感じたため今回こちらでも紹介させていただきます。今回の対象は車いすを使用され自力では座り直しができない方となります。これまで臨床場面でほぼ全介助で車いすに座りその後長時間過ごされている方を多く目にしてきました。その際に介助者がある程度の時間で除圧している姿もあればその後座り直しがなされているのか不明な方もいました。今回紹介させていただくモルテン「パワークッション」は3つの機能がついており私が感じていた長時間車いす座位で過ごされている方への対応には適していると感じました。

パワークッションは3つの機能が特徴で体圧分散性能・自動体圧調整・圧切り替えによる除圧が全て自動でできるものです。中でも自動体圧調整と圧切り替えによる除圧は良い機能と感じました。私自身も体験し実際に圧が切り替わることがわかり除圧されることがわかりました。実際には細かな動きで調整されているため自動調整中も不快感や恐怖心はありませんでした。身体機能面はもちろん精神的な面でも実際に利用される方にとってメリットは大きいと感じました。また介助者としても自動で調整してくれるため身体的負担の軽減と時間の有効活用ができる点はメリットと思いました（自動機能任せになり車いす上で放置されるようではよくないのは当たり前ですが）。他にもリチウムイオン電池や防水加工など管理もしやすいところは魅力的に感じました。価格は税込み 94,380 円です。介護保険福祉用具貸与品（車いす付属品）でもあります。

<ホームページより商品についての説明画像>

体圧分散性能	自動体圧調整	圧切替による除圧
3Dフィットエアセルが大腿部・坐骨部・尾骨部を包み込むように支え、体圧を分散させます	誰が座っても最適な体圧分散になるように自動で調整します	3Dフィットエアセルの圧切替によって坐骨部や尾骨部の除圧を自動的に行います（15分ごと） ※すべてのケースでプッシュアップが不要になるわけではありません
内部構造  <p>3Dフィットエアセル 底つき防止フォーム パワーバンク (充電式バッテリー) コントロールBOX (操作パネル) 拭拭しやすいインナー保護カバー クッションカバー</p>	座った瞬間の圧  <p>高 低</p>	 <p>高 低</p>
	自動体圧調整後  <p>被験者 151cm 50kg BMI 21.9</p>	<p>被験者 151cm 50kg BMI 21.9</p>

今回紹介させていただいた福祉用具は私自身の見解が含まれています。使用者の身体機能面や環境面・経済面など様々な要素を踏まえ、担当療法士や医療相談員・ケアマネジャー等と相談する際のひとつの考えとして参考にして頂ければ幸いです。

施設紹介のページ



介護老人保健施設 グリーンヒル与板

菊 入 桂 子・大 堀 肇

当施設は、社会福祉法人が運営する単独型老健として1989年に開設しました。母体である長岡三古老人福祉会は、「福祉・保健・医療をとおしてご利用者一人ひとりの人格、尊厳を大切に、健康と自立した暮らしを支えていく」を法人理念に、特養・老健など、18か所で事業を展開しています。グリーンヒル与板の定員は入所者146名、通所者40名です。自然豊かな小高い丘の上に位置し、四季折々の景色を感じられる環境の中で、ご利用者が安心して在宅復帰・在宅療養を目指せる支援を行っています。

当施設では超強化型老健として、ケアとりハビリテーションが自然につながる実践を多職種で積み重ね、ご利用者一人ひとりの残存能力に着目した、自立支援や活動・参加の維持、向上を目指したりハビリテーションを行っています。

また、施設全体でノーリフトケアに積極的に取り組み、日常業務全体を通して作業姿勢や業務の流れに配慮した環境づくりや、福祉用具の活用を行い、職員の腰痛予防に効果を上げています。近年はスタンディングリフトを活用し、トイレ誘導や立位保持が困難であったご利用者に対しても、安全で尊厳のある支援が可能となりました。ご利用者の生活を支える視点を大切にしながら、多職種とともに日々の実践を積み重ねています。



OT県士会 関川愛広苑

当苑は1997年に開設され、入所・短期入所80床、通所リハビリ定員35名です。利用者様は新潟県北部の関川村の豊かな自然の中で、春のお花見、夏祭りや花火大会、秋の紅葉ドライブ、冬の忘年会・新年会など年間行事を通じ、四季を感じながら生活されています。関川村の協力により天然温泉（湯沢温泉）を導入し、充実した入浴設備も当苑の自慢です。

リハ科はOT4名、PT4名、ST1名が在籍し、施設内に訪看の事業所も併設されています。入所では日々の利用者様とのリハビリや、重度介護が必要な利用者様に安心・安全なケアを提供できるよう多職種で連携しノーリフティングケアにも取り組みながら、在宅復帰支援を行っています。通所では在宅生活継続に向けた支援を行い、今年度から座りっぱなしを減らす「座位ブレイク」にも取り組み始めました。介護予防事業や地域ケア会議に参加し、村や各事業所と連携も深まっています。利用者様と制作した作品は村の文化祭に出品し、村の皆様にも見て頂いています。

今後も当苑は地域との繋がりを大切にしながら、関川村の医療・介護を支える拠点として、利用者様が住み慣れた地域で「その人らしい生活」を続けられるよう支援していきます。



令和7年度

第2回業務執行理事会議事録

日 時：令和8年1月17日（土）10：00～12：00

場 所：Web開催（Zoom）

出席者：四方、石井、門脇、村山、尾崎、小山、山倉

1. 令和8年度 新潟県作業療法士会事業骨子・計画・予算案について

令和8年度の事業計画・予算案が出そろい、収支均衡を調整、令和7年度第4回理事会で検討へ。

【支出】

○学会運営委員会

⇒学会運営委員会3ブロックに分かれて実施するブロック小学会について、県外講師を招く、新入会員の懇親会参加費の無料化検討。

○広報委員会（HP・LINE）

⇒以前から検討していた県士会HPのセキュリティアップデートを実施。養成校と連携して進めていたOT普及のためのポスターも作成。

○障害福祉対策委員会

⇒高次脳機能障害者支援法が成立したことを受け、高次脳機能に関する研修会を追加で企画。

○住宅改修・福祉用具対策委員会

⇒2つのオンライン研修会のうち1つを集合開催とする。

【収入】

各委員会の研修会事業収入の見積額について、それぞれ見直す方向で検討。

【その他】

○臨床実習指導者講習会の運営について

*具体的な運営方法や予算案については理事会で検討する。

*会長より、全国的にも新潟と同様の傾向にあり協会を交えた議論が必要になってきている。

○Google for Nonprofitsについて

*学会運営委員会で、Googleの非営利組織向けサービスである「Google for Nonprofits」の使用を検討しているとの報告あり。これまで委員等が個人アカウントで管理していたデータを、法人所有として一元管理できるようになる点が大きな利点である。また、

データを管理する上でセキュリティの強化にもつながる。

*サービス導入に向けた検討にあたっては、ICTサポート委員会の協力が必要となってくる。県士会として登録手続きを進め、まずは学会運営委員会において試験的に運用してみる方向で検討を進めることとする。本件については、次回理事会に協議事項として提出する予定。

2. 定款・規程改定について

*理事会では、定款、会費納入規程、旅費交通費規程の改定と、永年会員規程および会費減免制度規程を新設する案について協議。

○永年会員規程

⇒長年にわたり法人に在籍した正会員に対して定年後の会費負担を軽減することを目的として「正会員」の区分内での位置づけ。

⇒満60歳以上で通算20年以上の会員歴がある正会員とし、年額3,000円の会費と設定。

○会費減免制度規程

⇒会員の会費負担を軽減を目的に提案。

⇒「対象」をどう設定するかが課題となるが、

⇒「休会」と「会費減免制度」の選択ができるよう検討していく。

⇒これら新設規程は、令和8年度中に承認、会員への周知を行い、令和9年度から運用する予定で準備を進めていく。以上を踏まえ、理事会にて新規規程案を提案する。

3. オンデマンド配信に関する事項について

*今後、研修会のオンデマンド配信について本格的に検討を進めていくにあたり、配信方法や講師への謝金の取り扱いなど、運用面での対応について協議を行った。

*動画研修の運用方法については、定額のサブスクリプションと従来のアーカイブ配信で検討、コンテンツ量からこれまで通りアーカイブ配信を基本とする方針とし、参加費についてなど検討を進めることとする。

*今後の運用として、新たに書式を作成し、講師に対してアーカイブ配信に関する同意を得ることとする。外部講師については、アーカイブ配信の期間に応じて、1年間の場合は5,000円、2年間の場合は10,000円

を講師謝金に上乘せして支払う方向で、県士会員が講師を務める場合は、その半額程度とする案が示された。

3. 人材バンクについて

*これまで検討課題として挙がっていた「人材バンク」の運用について検討。登録フォームを作成し、士会運営や派遣事業、講師依頼への協力意思の確認、ならびに会員が有する専門分野の情報を集約できるよう、登録内容や枠組みの検討を進めていくこととする。

*会員への情報発信手段の強化として、メルマガ登録の促進を継続して進めるとともに、学会等の場でその場でメルマガに登録してもらえるような取り組みについても検討していく。

以上

令和7年度

第4回理事会 議事録

日時：令和8年1月17日（土）13：00～17：15

会場：Web開催（Zoom使用にて）

出席者：四方、門脇、尾崎、小山、青柳、上杉、片山、齋藤、佐藤、嶋倉、知名、間宮、室橋、山中、山倉（理事15名）二村、水越（監事2名）

（欠席）：石井、村山、渋谷、吉井（理事4名）

I. 報告事項

1) 会長報告（四方会長）※一部抜粋

- ・9月29日 住改福祉用具点検アドバイザー会議
- ・10月24日 新潟刑務所研究授業
- ・10月25、26日 協会長・士会長会議 現地参加
- ・11月17日 小林一大参議院議員 政経セミナー
- ・11月22日 自民党 新潟県政経文化セミナー
- ・11月26日 リハ協議会 住宅改修・福祉用具 市町村職員向け研修講師：厚労省の部門担当者（OT）と情報交換。

2) 理事報告 ※一部抜粋

○公開講座企画実行委員会（齋藤理事）

- ・10月11日に第31回公開講座開催し今年度の委員会の事業は終了。

○災害対策委員会（齋藤理事）

- ・1月20日に委員会議、1月31日に研修会を予定。例

年参加者が少なく、運営としても課題。

○学会運営委員会（門脇副会長）

- ・12月20、21日に第3回POS学会開催。参加者565名。内OTは143名

○精神分野推進委員会（門脇副会長）

- ・刑務所派遣と派遣者会議が各3回残っている。
- ・10月24日に行われた刑務所研究授業参加。
- ・刑務所側で常勤OTの雇用を検討中。

○生涯教育委員会（佐藤理事）

- ・10月18日、11月15日に生涯学修制度相談会開催。ポイント付与作業を2回行った。

○ブロック事業：中越ブロック（佐藤理事）

- ・中越ブロックでの研修会にて事業計画と実施の不備あり。

○地域包括ケアシステム推進委員会（片山理事）

- ・今年度は事業計画通り推移。委員会議1回、OT協会主催の会議（認知症関連の会議1回、地域支援事業関連の会議2回）を予定。

○MTDLP委員会（小山理事）

- ・12月17日 MTDLP全国推進会議に参加。
- ・1月25日にMTDLP実践研修（オンライン）。

○住宅改修・福祉用具委員会（小山理事）

- ・1月14日に生活行為工夫情報事業東部ブロック会議に参加。

○現職者共通研修委員会（知名理事）

- ・2月に第2回現職者共通研修を予定。

○臨床実習推進委員会（知名理事）

- ・12月14日 OJTをテーマにした研修会を実施。

○学術誌編集委員会（間宮理事）

- ・学術誌は現在業者へ納品依頼中。

○子どもサポート委員会（室橋理事）

- ・次年度に向け、各市町村へ5歳児検診の実施の可否を調査。

○障害福祉対策委員会（室橋理事）

- ・委員会議を2回実施。研修会は2月上旬予定。

○地域共生社会推進委員会（青柳理事）

- ・11月に第4回委員会議を開催。
- ・次年度の茶の間派遣について、新潟市からは江南区を含めた全区での派遣対応を依頼あり。江南区の茶の間を訪問し打ち合わせを実施。

○現職者選択研修委員会（上杉理事）

・11月30日に現職者選択研修会を開催。テーマは精神分野。26名参加（他県士会員4名）。

○広報委員会（尾崎理事）

・今年度2号目の広報誌「朱鷺」を発行。次年度からデジタル化へ。

○ICTサポート委員会（渋谷理事）

・11月に研修会を実施。参加者数は過去最高の51名、内容は例年同様高評価であった。

○ブロック内事業（村山副会長）

・ブロック長会議を2回実施。下越ブロック会議を1回実施。今後、会議兼勉強会を実施予定。

○ケア協議会委託事業（村山副会長）

・9月に山本協会長よりご講演いただいた。当日参加15名、アーカイブ配信25名。

○スキルアップ研修委員会（石井副会長）

・10月14日に第3回、12月8日に第4回研修委員会議を開催。

○選挙管理委員会（山中理事）

・次年度の役員改選に向け2月に委員会議開催。

○新潟県リハ専門職協議会事務局（山中理事）

・今年度の同行訪問実践者研修の修了証書発行者は全34名。内OT17名。2年間で86名が修了。

○倫理委員会（山倉理事）

・11月17日に委員会議開催。かわら版作成。

○表彰委員会（山倉理事）

・10月29日に委員会議開催。表彰対象者選出。

3) 財務報告（嶋倉理事）

・現時点で公益事業が41%。法人会計が76%。周年記念事業の影響もあり去年より公益事業の動きが悪い。各委員は予算通りの執行を。

4) 事務局報告（山倉理事、山中理事）

・研修会の申し込みと参加費の支払いについて、次年度イベントペイのシステムを導入。
・メルマガ登録者が現在236名で停滞気味。職場や担当委員会で全員登録をお願いしたい。

業5社、個人1名）、学生32名 ⇒ 承認

第2号議案 臨床実習指導者講習会について

臨床実習指導者講習会の制度上の役割は、運営開始当時と比べて拡大。養成校によっては教員が無償で運営に携わっている。PTの臨床指導者講習は養成校が赤字運営で行っている。

→今後の講習会運営、特に講師への謝金の取り扱いについて検討したい。

A：士会より臨床講師にのみ謝金支給（従来通り）

B：養成校主体で運営し士会から臨床OTの講師派遣

C：士会より養成校含む運営講師全てに謝金を支給

⇒ A案を採択

第3号議案 令和8年度 新潟県作業療法士会事業計画・予算案について

⇒ 事業計画・予算案を修正し再提出へ

第4号議案 令和8年度 県士会表彰対象者について

功労者表彰：矢川明子様

⇒ 承認

第5号議案 新潟県作業療法士会 定款・規程改定について

①定款

②会費納入規程

③旅費交通費規程

④永年会員制度規程

⑤会費減免制度規程

以上5項目について、文言の修正や規程の内容について協議を行う。

⇒ 本協議を基に規程案を整理し、さくら会計への確認作業も行っていく。次回理事会で承認が得られるよう進めていく。

以上

II. 協議事項

第1号議案 会員管理について

入会3名、賛助会員入会1社（酒井医療株式会社）、退会4名→正会員1030名（内、休会18名）、賛助会員6件（企

SAKAimed

急性期からの *
ハンドセラピーを
お手伝いします。

* スプリント *

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel : 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp



より良い医療・福祉をコーディネートし
地域社会に貢献する

YUKYUDO

株式会社 **悠久堂医科器械店**

SINCE 1957. MEDICAL EQUIPMENT COMPANY

<https://www.i-yukyudo.co.jp>



各種車椅子・座位保持装置・ベッド
・コミュニケーションエイド・福祉機器
・介護用品・介護保険レンタル・住宅改修

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0002
新潟県新潟市秋葉区市之瀬 349-2
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
<https://www.gtb-niigata.jp/>

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号

(株) 田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11
TEL 025 281-0303
FAX 025 281-0339



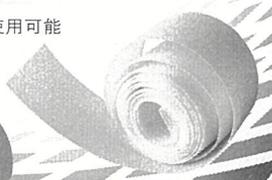
LUNA CAST

ルナキャスト®
熱可塑性ギプス包帯

硬化後も再成形できる！
手軽で便利な現場の味方

- 70℃以上のお湯で軟化し、素手で使用可能
- 硬化後の補強も簡単
- フィット性に優れている

イワツキ株式会社

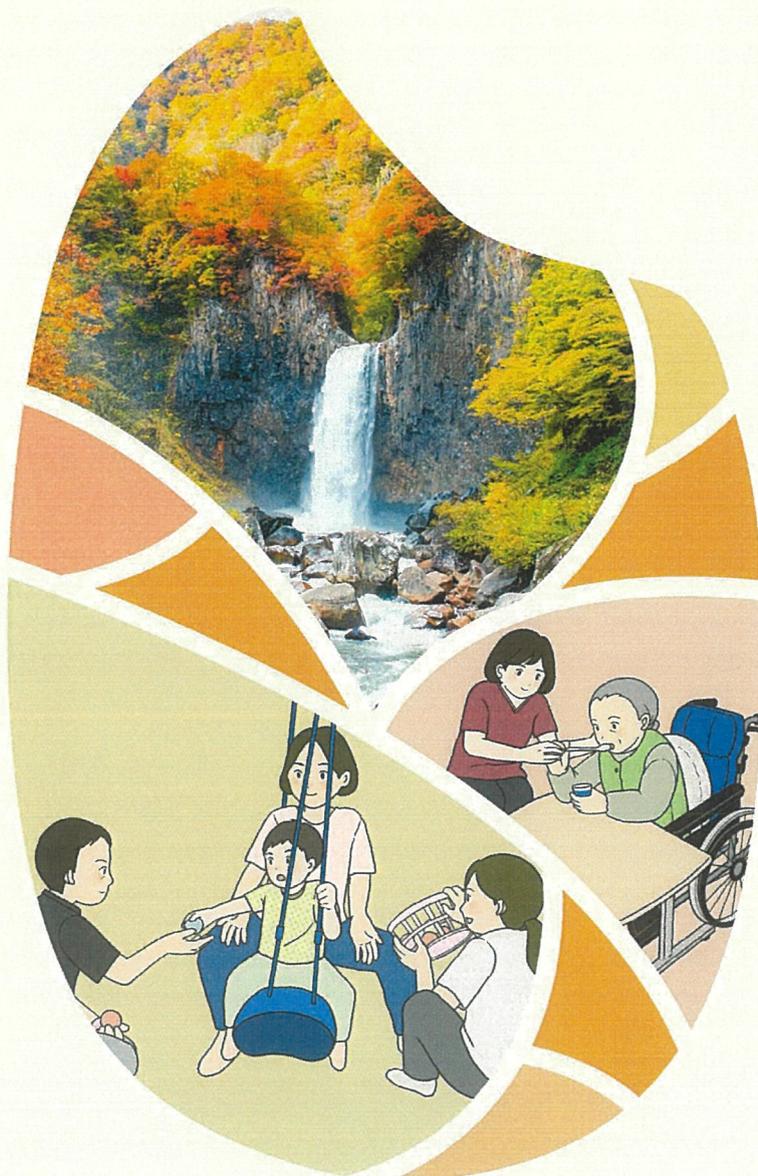



新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872
新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号
<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018
<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No.30 2026年2月26日発行

発行責任者：四方 秀 人
編集責任者：尾 崎 生
発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1
総合リハビリテーションみどり病院
印 刷：株式会社 タカヨシ



脳機構から読み解く作業療法の挑戦
 「『作業』によってあなたも私も満たされる」

第60回日本作業療法学会

The 60th Japanese Occupational Therapy Congress & Expo in Niigata 2026

2026年11月20日(金)~22日(日)

会場 | 朱鷺メッセ 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1

学会長 | 種村 留美 関西医科大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

主催
 一般社団法人日本作業療法士協会

運営事務局
 株式会社インターグループ
 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル
 TEL: 06-6372-3052 FAX: 06-6376-2362
 E-mail: ot60@intergroup.co.jp

<https://ot60.umin.jp/>

